

ロザリオの祈りの黙想 — 福者幼きイエスのマリー=ユジェーヌ神父と共に

祈り: 福者幼きイエスのマリー=ユジェーヌ神父
編・訳: 中山真里 (ノートルダム・ド・ヴィ会員)

はじめに

このマリー=ユジェーヌ神父のロザリオの祈りの黙想は、10年以上前に中山さんが編訳したものです。それが幾つかの教会や教会のグループにおいて使われるようになり、現在に至っています。

今回 PDF にてお配りするにあたり、玄義の表現を見直し、聖書箇所も正確に記しました。(引用: 『聖書新共同訳 旧約聖書続編つき』 日本聖書協会発行)

ロザリオの祈りの唱え方は、女子パウロ会の公式サイト Laudate や、聖イグナチオ教会信仰入門講座のサイト等をご参考にしてください。(Y.Y.)

***** 喜びの神秘 *****

第1の玄義 受胎告知

聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む(ルカ 1:35)

いと高き方の力があなたを包む。と言う表現は、旧約聖書のいくつかの場面を思い起させます。

たとえば「雲がその上にとどまり、主の栄光が幕屋に満ちていた」(出エジプト 40:35)

「雲が幕屋の上にとどまっている間」(民数記 10:34)など、雲によって表される神の臨在が人々をその影で覆っていることを示しています。

神の働きは明暗のはっきりした真昼の光の中ではなく、信仰の闇の中でしか捉えることができないのです。

この闇の雰囲気こそ、神ご自分を顕される際にかもしだされるものです。

マリアはイエスの誕生を告げる天使に向かい「お言葉どおり、この身になりますように」と、とてつもない信仰をもって答え、神の恵みに与るものとなりました。

マリアの信仰は彼女のうちに「みことば」を受け取るために必要な力を生じさせ、マリアは神の母となりました。マリアは包み包み込まれ、信仰のうちに待ちます。

マリアよ、あなたとともにわたし自身を捧げます。

第2の玄義 マリアのエリザベトご訪問

エリザベトは聖霊に満たされて、声高らかに言った。「あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。わたしの主のお母さまがわたしの所に来てくださるとは、どういうわけでしょう。」(ルカ 1:41-43)

マリアは永遠の光に照らされて喜び震えます。幾世代にもわたり、神のあわれみが世界に注がれる事でしょう。そしてマリアは、自分がいずれはその恵みの母にあることを理解します。

マリア、光にみちた方、あなたは光を宿す顕示台です。人々にその光をもたらししてください。

第3の玄義 主のご降誕

天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日、ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。」(ルカ 2・10-11)

光より光であるイエスよ、あなたは夜の沈黙のうちにわたしたちのところへ来られました。

そしてヨゼフとマリアは深い闇夜をこえ、この光の源にやって来ます。

光の源、それは神、愛の神

第4の玄義 主の奉献

シメオンは幼子を腕に抱き、神をたたえて言った。

「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり この僕を安らかに去らせてくださいます。わたしはこの目であなたの救いを見たからです。」(ルカ 2・28-30)

アンナとシメオンという二人の「主の貧しい人々」は、神に希望をおき、その約束に生きていました。

わたしたちも彼らのように、聖霊のはたらきに忠実な「貧しいもの」となりましょう。

第5の玄義 神殿でイエスを見つける

わたしが自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか。(ルカ 2・49)

幼いイエスの魂は、マリアとヨゼフにとって神秘そのものでした。御父のみ旨に従うイエスの神秘です。

マリアよ、どうか教えてください。あなたの子であるイエスの神秘は信仰の神秘、愛の神秘であると。

聖書 新共同訳:

(c)共同訳聖書実行委員会

Executive Committee of The Common Bible Translation

(c)日本聖書協会

Japan Bible Society , Tokyo 1987, 1988